

平成 17 年 11 月 25 日
東京電力株式会社
福島第二原子力発電所

定期検査中の 3 号機における「B 系原子炉自動スクラム」警報発生の 調査結果について

定期検査中の当所 3 号機において、平成 17 年 11 月 19 日午後 1 時 20 分頃、「B 系原子炉自動スクラム^{*1}」の警報が発生しました。

当該警報は、タービンバイパス弁^{*2}他の機能検査時に不要な警報が発せられないようジャンパー線^{*3}により安全処置^{*4}がなされていたところ、その復旧を誤ったことにより、誤って警報が発生したものです。その後、当該安全処置を再度実施して当該警報は解除されました。

なお、本事象は警報のみ発生したもので、全制御棒は全挿入の状態であり安全上の問題はなく、これによる外部への放射能の影響はありませんでした。

(11 月 19 日お知らせ済み)

調査の結果、当該ジャンパー線は、別の作業により検査終了後もそのまま設置しておくべきところ、誤って復旧させてしまったことが分かりました。これは、別の作業で当該ジャンパー線が使用中であることを示す表示札は設置してありましたが、他のジャンパー線の表示札の下に重なっており確認しにくい状態にあったことから、当直員がこれに気付かなかったことによるものでした。

今後、安全処置を復旧する際には、他の作業による安全処置の表示札がないか、十分確認した上で実施すること、および、ジャンパー線に複数の表示札を設置する場合は、片側にまとめて取り付けることにより確認しやすい状態とすることとします。また、このことを当直の事例検討会にて周知し再発防止に努めます。

以 上

* 1 : B 系原子炉自動スクラム

原子炉を緊急停止するための信号が片系だけ発生した状態であり、制御棒は動作しません。スクラム信号は A・B 両系が同時に発生することで制御棒を全挿入し、原子炉を緊急停止させます。

* 2 : タービンバイパス弁

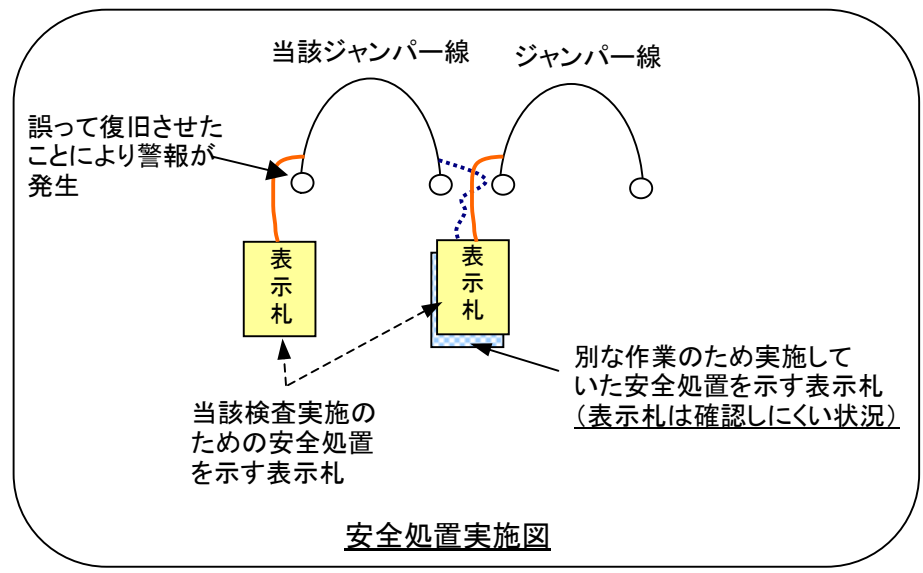
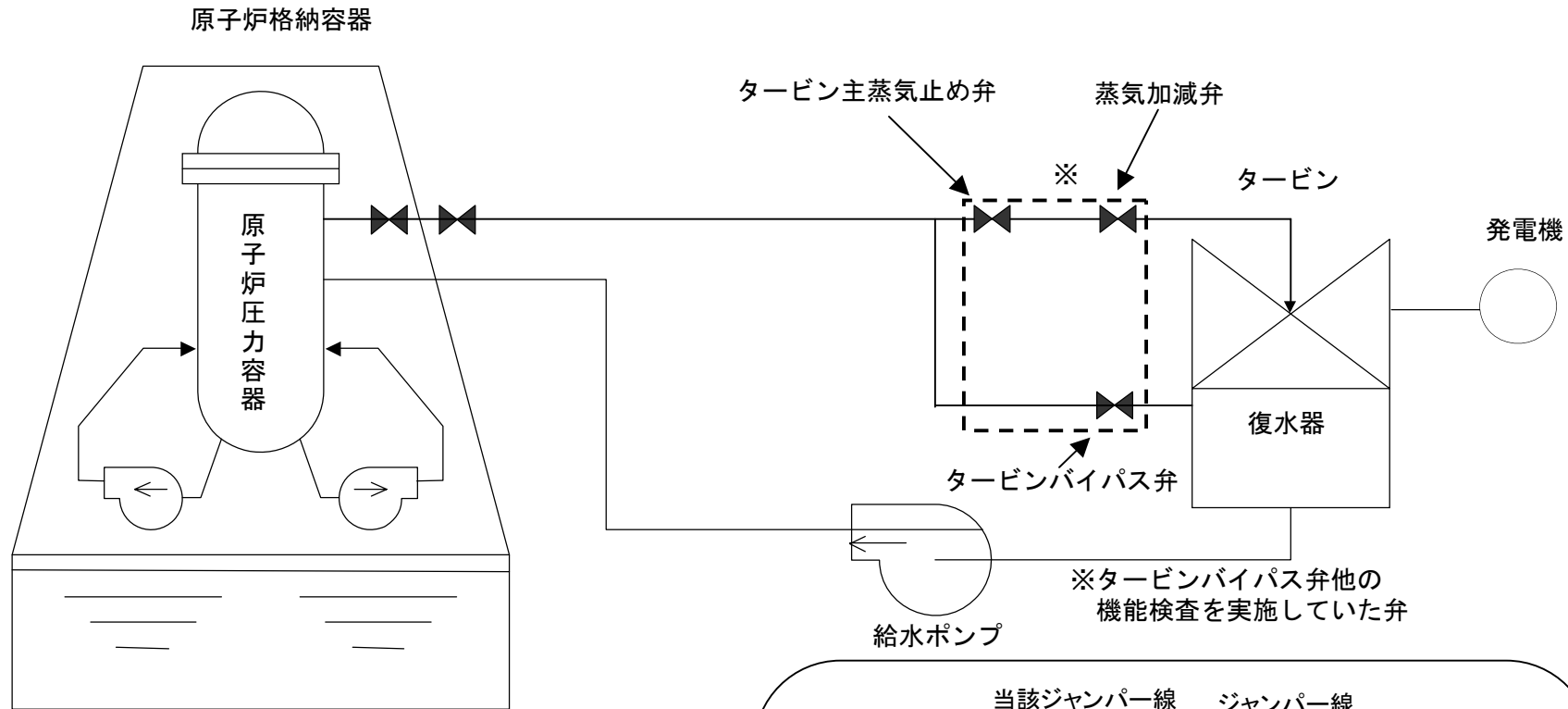
送電系統の事故時などにタービンを保護するため、主蒸気を復水器に直接送るための弁。

* 3 : ジャンパー線

電気回路の切断部などを一時的につなぐ線。

* 4 : 安全処置

設備の安全などを確保するために行う処置。



系統概略図